





記念すべき一発目は、未来についての雷話。

今から7年前

社会人入門に向けて、そろそろ就職活動が始まるという時期

僕は未来に対して非常に閉塞感を抱いていました。

なんだかもう動物園の檻の中にいるような気分。

「将来のことを考えて安定した仕事に就きなさい。」

「いつまでもやりたいことができるほど人生甘くはないぞ。」

さあ、

保険だ！

年金だ！！

積立貯金だ！！

明日のことだけ考えろ！！

誰もが言われたことがあるであろう

ベタなセリフに囲まれて窒息してました。

つまんねえなあ。

そりゃあ、ごもったもな意見だけれども

それってなんかとっても退屈窮屈シルブプレ。

それじゃあ、あんまりにも毎日が味気なくてヤになっちゃう。

なんだかなあ～。

阿藤海の気持ちもわかっちゃう。

生きることがとてもつまらなく思えて

ホトホト困り果てていたんです。

そんな人生の倦怠期

たましいの幽閉期に

よく似た2つの命のスタイルに出会いました。

壱発目の驚愕は

アボリジニジニ、アボリジニ。

『ミュータント・メッセージ』という本の中に書かれてあった

オーストラリア中央の灼熱の砂漠地帯で暮らす

原住民たちの生活様式にココロボカン！

数ヶ月間共に暮らしたという作者のおばさんによれば

アボリジニは

電気も水道もコンビニもラブホもなにもない

広大な荒野で暮らしていて、食糧の確保もままならず

家なき子も真っ青のガチンコその日暮らしをされていて

二週間以内に食糧が見つからなければ

一族、即、全滅。

ということもありえる苛烈な環境で暮らしていたそうです。

けれど、だけれども

明日のことを疑ってない。

一切。

もう拍手喝采したくなるくらい

気持ちよく疑ってない。

この世界は豊かなところで

天が、生きるために必要なものは必ず用意してくれると信じきっていて

今にありったけを注いで生きている。

しかも

その本によれば

彼らの行く先には本当に

彼らの祈りに応えたかのように食糧となる動物や植物が現れて

感謝とともに命が連なっていくんだそうです。

何日も、何ヶ月も、ずっと、ずっと。

作者いわく

アボリジニはそんな生活をずっと続けてきたそうです。

それを読んだ鼻垂れ坊主な私の感想。

カッケェな！！

明日のことを一切疑わない生き方は

生きる喜びが時の隅々にまで広がってんだろな！！

と、たましいもだえ狂ったんですが。

同時に

でも、本当？

作者が夢想したフィクションじゃねえの？

何度も何度も騙されて

美しすぎる話には必ず裏があることを知ってしまったよ。

石橋を叩きまくって壊して安心するタイプの僕は

そんなことも思ったんです。

信じたいのと、信じたくないのとの狭間で、モンモンモン。

そこに式発目。

マザー・テレサ。

実在。

世界的に超実在。

ほんのちょっと前まで生きてたワールド・ワイド・マザー。

橙雷 2

彼女の生涯を綴った本を読んだら
彼女もアボリジニと同じ生き方をしてたんです。

「自分が愛の道を歩んでいけば、神さまは必ず応えてくれる。
今、目の前の人にとりつた愛を注いで生きていこう。」

そんな信念を掲げて
今だけを見つめて行動してたんです。

そしてね、驚天動地。
テレさんの時も、アボリジニの時と同じく
困った時にはどうにかなってくんです。
先のことなんてまったく考えないで
今、目の前にいる人と全力で向き合って生きているだけなのに。

たとえば
マザー・テレサと共に働きたいという人が増えて増えて
その時使っていた場所では入りきらなくなった時でも
テレさんは

「何も心配することはないわ。もっと大きな家が必要なら神さまがちゃんと見つけてくださるわ
」

の強気一点張りで、まったく引越し先を探したりしないんです。
読んでて
テレさん大丈夫！？無計画すぎない？
ってこっちが心配になるんだけど
不思議なことにどうにかなっちゃうんです。
引っ越すからといってケタ外れの安さで大きな家をゆずってくれる人が現れて。

その後も
これでもかってくらいに色々な困難に直面するんですけど
万事その調子でドラマのような出来すぎた設定で
ことごとく助けが入りテレさんなんとかなっちゃうんです。

橙雷！

すっげーパンク！

NO FUTURE NO PLAN.

なんてカッコイイんだ、この生き様。

立派だとか、素晴らしいとか、そんなんじゃないくて
カッコイイ。

明日を疑わない。

ダメなら恨まず死ぬだけ。

男気ありすぎまする。

オレもそんな生き方してみようかな。

疑い持たずに生きてみようかな。

だって

オレもう

死にたかったもん。

明日を疑い

未来に縛られ

不安に脅され

やりたいことなんにもできんなら

そんなの本末転倒で

今が台無しで

命が帳消しで

そんなことになるぐらいなら

もう生きたくなかったもん。

だから

最後の望み。

今だけ見つめて生きてらどうなるか

試せるとこまで試してみよう。

真底からあきらめるのはそれからでいい。

可能性は死んじゃない。

まだ

自分を殺しちゃならない。

橙雷 3

よーし、ここはこっちよ

一発逆転！

最後の秘策

I AM NO PLAN で真剣勝負。

ダメもとで、いけるとこまでいってみよう！

どんな結末でも甘受しよう！！

そう決心すると

時が経つにつれ

いつの間にか萎えしぼんでしまっていた未来が

ふくらみひろがり音無くはじけました。

ってことは

今だけ見つめてやりたいことなんでもやってええんや！？

そんなのなんて春ウララ。

俄然生きるのおもしろなってきた！

情熱溢れてこぼれて耳から噴き出した！

人生ってばホント不思議！

環境なんにも変わっちゃいないのに

決心ひとつで

世界が晴れ渡るりれ。

すべてを捨てたら、すべてを手に入れた。

寸分変わらずそんな気分。

よーし、信じてみるか！！

でも、なにを！？

神さまを信じていないオレはなにを信じるね？

うーん、そうですね。

人間を信じよう。

人間の可能性を信じてみよう。

今までの人生を振り返って

たいがいは相手に投げたものが

まるでブーメランのように自分に返ってくる印象がある。

目には目を。

歯には歯を。

鶴には亀を。

そんなイメージ。

だから、人の心意気を信じてみよう。

疑って疑って信じてみよう。

いっぱい幸せもらってきたもんな、他人に。

と、言葉にすれば長いですが

二つのシンプルな生活様式に触れて

シナプス暴れん坊。

永遠のような一瞬を駆け抜けて

そんなことを思うに至りました。

まあおそらくは

私もそうしてみようなんてことにはならんと思いますが

もしも

もしもあなたが未来にからめとられそうになった時にはね

そんな作戦もあったなど

そんな未来をフル無視大作戦もあるにはあったなど

頭をよぎっていただけたらこれ幸い。

ドラクエIVで言うなら

ガンガンいこうぜ！



せっかくなのでこのまま続けてテレさん関連の雷話をもひとつ。

こんな2つも続けてテレさんの話をして
さてはおまえテレさんのこと大好っきゃろ！？
とか思われるかもしれませんが
そりゃあ好きか嫌いかつたら大好きですけども

でも、でもでも
テレさん別に神さまにだけじゃなくて
人にも恋すりゃ良かったのに！
とか思うし
コンパにマザー・テレサと滝川クリステル
どっちを呼んで欲しい？
って聞かれたら、即決でクリステルですよ。
それは、もちろん。はい。
コンパにはクリステルでしょう！？
人間、優劣なんてなくて適材適所ですからね！

どうでもいいですねそんなこと。

つつい盛り上がってしまいました。
話、戻しますね。
今回は

高校生の時に

少年ジャンプを探しにこっそり入った

姉ちゃんの部屋で見つけた

『マザー・テレサ 日々のことば』という本の中にあった
雷文をご紹介します。

この文と出会うまでの僕ときたら

心の中がどんより不安だらけだったんです。

この国の経済は近い将来破綻するんじゃないだろうか。とか

地球の環境問題はそのまま破滅に向かって一直線なんじゃないだろうか。とか

ちっぽけな自分では

どうすることもできない問題に頭をもたげて

なにか行動を起こす勇気もなく

ただただウロウロオロオロおどけてました。

そんな、自分に対しても世界に対しても

へっぴり腰だった時期に

この文に出会ったんです。

『マザー・テレサ 日々のことば』

36ページ 全文掲載。

私たちが排水溝から引き上げた男性は
体の半分を虫に食べられている状態でした。
彼をカリガートにある
『死を待つ人の家』に連れて来ると
彼はこう言いました。

「私はこれまで道端で獣のように生きてきました
それなのに今、愛され、手当てを受け
まるで天使のように死んでいきます」

私たちが彼の体からすべての虫を取り除くと
満面のほほえみをたたえてこう言いました。

「シスター、神さまの家に帰ります」

そして亡くなりました。
だれを恨むでも、何かを比べるでもなく
あのように言うことができる
人間の偉大さを見るのは
ほんとうに素晴らしいことでした。
これこそ
どんなに物的に貧しい時でも
霊的に豊かでいられる人間の偉大さ
とすることができるでしょう。

赤雷！！

背骨コナゴナ

脊髄ドクドク

地震雷火事親父がまとめてどんと来た。

ぐらぐらぐらいの衝撃が体中を駆け巡りました。

青天の霹靂とはこのことか。

なんというか

人間新記録達成。

ヒューマンレコード大幅更新。

マジすか！？

人間って

排水溝にいて

体の半分を虫に食べられていても

愛され

手当てを受けたら

満面の笑みをたたえて死んでいけるんすか！？

人間ってスゲー。

霊的に豊かかどうかはサッパリわからんけれども

この人スゲー！

人が感動する時の1つのパターンとして

人間ってここまでできるんや！？

って思いしらされた時に

感動するパターンってのがあると思うんです。

マザーテレサの生き方もそう。

坂本龍馬や明治維新を駆け抜けた若者たちの生き方もそう。

イチローやオリンピック選手たちの身体能力もそう。

チェホンマンの体格やクジラ並みに潮吹きまくるAV女優の体質もそう。

誰々よりも

我々よりも

素晴らしいとか

うんぬんかんぬん

善悪合否

そんなん関係なく

そんなん抜きにして

ただ純粹に

人間ってここまででいけんねや!!!

っていう人類の無限の可能性の一端を示してくれたことへの感動があるんちゃうかと思うんです。

いわば

人間新記録達成に対する同じ人類としての感動。

そういうものがあると思うんです。

赤雷 3

んでね

彼ですよ。彼。

排水溝から引き上げられた彼。

僕の中の人間が逆境の中で満面の笑みをたたえられる

シチュエーション記録大幅更新ですよ。

人が100m5秒で走ったくらい的大幅更新。

人間、

獣のように暮らしていようが

体の半分虫に喰われていようが

温もりに触れられれば

笑って死んでいくこともできんねや！

これはもはや革命の域に達する落雷。

僕は思いしらされました。

ああ

オレは知らぬ間にまた大人たちに踊らされていたんだなあ。

不幸の定義を他人に勝手に決めさせていたんだなあ。

国が貧しくなれば

人並みに暮らしていなければ

地球が破滅すれば

人は不幸になる。

そんな安易な他人の考えを知らず知らずの内に

受け入れて落ち込んでいたなんて

なんて情けない。

ドラえもん泣きついでる時の

のびのび太くらい情けない。

生きてる内に地球が滅びたら

“何十億年も続いたこの星の終わりを見届けられてラッキー♪”

ぐらいの軽やかさで死んでいったってええじゃないか。

この国が今より貧しくなれば

“いつの間にかマリアントワネットみたいになってた僕らに神様のなもんが
パンのありがたみをもう一度しっかりと噛みしめるチャンスをくれたんやろか？”

と勘ぐったってええじゃないか。

現実の受けとめ方は
それぞれの腕の見せどころやねんから。
専門家になんて決めさせるもんじゃないんやから。

自分の価値の尺度を
他人に委ねて生きていたなんてホンマに情けない。
なっさけない自分にビンタしてやりたい。
往復でアントニオしてやりたい。
歯軋り悔しい。

このカリガートの『死を待つ人の家』で
体の半分を虫に喰われながらも
笑顔で死んでいった男の人の人生を
誰が不幸だと決める。
幸せではないと決める。

人それぞれが自分の価値観で決める。
えらい当たり前のこと言ったなオレ。
でも、ホンマにそうや。

なら、オレは幸せと決める。
笑顔で
天使のような笑顔で
死んでいけるたましいを持った人間は
幸せやと決める。
持ちすぎたばかりに
奪われる不安や恐怖に
さいなまれて死んでいく人間よりも
幸せやと決める。

もたざることの贅沢さってものがこの世には確かにあるもん。

人間のおおいなる可能性の一端を示してくれた

この名も知らぬ男の人に大感謝。

ありがとう。

どころか

アリガトランポリン。

これからは

他人が創りあげた価値観の中で踊るんじゃなくて

自分が汗水鼻水たらして創り上げた価値観の中で

踊り狂おう。

自分の幸せぐらい

自分で決めてやらあ。

こんちくしょう。

あなたの幸せは

あなたが決めらあ

てやんでばろちくしょう！

紫雷

3発目は
新聞記事を読んで
自分なりに思考をこねくりまわして
発想を飛躍させて
自分の中から出てきた言葉に落雷。
鍵となる言葉は“犠牲”

僕は昔からこのギセイという言葉に
どうも嘘臭さや胡散臭さを感じていたんです。
聞くとムズムズする。
“犠牲”という字面からしてもう重苦しくて気が滅入る。

昔、働いていた職場の上司に
「やり方に納得できないので仕事を辞めます。」
と言った時

「おまえはトラックに轢かれそうになっている我が子を助けるために
自分の命を投げ出す母親を見て美しいと思わんのか！？
おまえも一生に一度くらいは周りの人間のために自分を
犠牲にして死ぬ気で働いてみろ！！」

と、怒鳴られて
この人の言うてることは一見正しく聞こえるけど

なんか違う。
と皮膚が違和感を感じて
でもその違和感をうまく言葉にできへんくて
にぎりこぶし。

そのもどかしさにも
悪用された“犠牲”にも怒りがこみ上げて
ますますブラックリストな“犠牲”という言葉。
大人が押しつけだしたら気をつける！

そんな我が天敵“犠牲”について
雷落ちるキッカケをくれたのは
ベテラン野球選手の引退試合に関する小さな新聞記事でした。

どこそこでセレモニーがあり
客が何万人集まり
同期の仲間がそれに参加したとかしないとか

そんな話と一緒に
その引退した選手の今後についてのコメントが載っていて

「これからは、お世話になった野球界の発展のために、この身を捧げていきたい。」

というようなお決まりのセリフが載っていたんです。
そのコメントを読んだ
性格が野茂の投球フォームくらいねじれている僕は

“イヤ、野球界のためにがんばらんといてくれよ。

オレはサッカーが好きやからサッカー界に発展して欲しい！
野球人気が高まって、ええ人材がサッカーから野球に流れるのは困る。
だからオレとしてはサッカー界のために頑張っって欲しい！”

と、なんとも器の小さい
こっまいこまいことを思ったんです。

でも、もちろん引退するベテラン野球選手は
オレの願いを聞き入れるわけではなく野球界のために頑張るわけです。

だって、
野球選手はサッカーよりもベースボールが大好きなわけで
そら人間
やっぱり自分の大好きなもののために頑張りたいですから。

でも、それってつまりは
奉仕でも献身でもなくて自己愛の変形やよな。
と、ベンチにいる時のノムさんくらいボヤキ癖のある僕は
屁理屈根性丸出しでぼやきまくりました。

とはいえ

コンビニでバイトをしていた時に常連さんでいた
鏡に映る自分に見とれてばっかで
半径 1 m くらいの自己愛の世界の中でしか生きてない

“十代若気の至りなニキビの金髪少年”

よりかは遥かに

野球界に貢献したいというベテラン野球選手の方が
成熟した大人な雰囲気を出し出すわけで
選挙にでも出ようもんなら一票入れたくなるわけで
はて、同じ自己愛なのに、この差はなんやろ？
と疑問が浮かんだ瞬間
同時に答えも浮かんできました。

引退する野球選手のコメントに大人な印象を受けたり
子供のために命を投げ出す母親に感動するのは
自己犠牲に感動しているのではなくて
自己の定義の拡大に感動しているのではなからうか？

母にとって子どもなんてのは

文字通り自分の分身のようなもので
野球選手にとって
野球なんてのは自分の代名詞のようなもので
それらはもはや
ある瞬間においては

This is me

といっても過言ではなく
その自分の枠の解釈の拡大に人は感動するのではなからうか。

その昔、お国のため家族のために
戦争で死んでいった兵隊さんたちに感動をするのも
自分の定義を家族や国にまで広げた
その心の広さに感動しているのではなからうか。

でも

戦争が終わり
文明が発達し
世界が近くなり
鬼畜米兵や悪魔なんてのは幻で

この地球のどこの国にも
僕らと変わらず
家族を愛し
友を愛し
恋人を愛する人間が
住んでいることを知ってしまった21世紀は
大儀のために死なねばならぬというのなら

この命
お国のためじゃなく
地球のために尽くして果てたいな。

と、思考は流れ膨らんでいき

いやいや
地球のために死ぬのならいっそ宇宙のために。。

ここで

紫雷！

なんてこった。
僕は、宇宙のためには死ねない。
宇宙は僕になんにも望んでいないから。
“僕に”というか

誰にもなんにも望んでない。
ただそこにあるだけ。

僕が死のうが
地球が滅びようが
宇宙は淡々と悠々自適に存在し続ける。

宇宙はなんにも望んでいないから。

なんにも望んでいない宇宙のためには死ねない。
宇宙のためになろうと死んだとしても
それは宇宙のために死にたいという自分の願いを
叶えるために死んだんやから
それはやっぱり自分のため。

宇宙のために死ねないということは
とどのつまり
他の誰のためにも死ねない。
もしかしたら自分のためにさえ死ねないのかもしれない。
“死”はそういった類のものじゃないのかもしれない。
自分のためとか
誰かのためとか
そういったものではなくて
もっと大きな流れの環の中のワンピースなのかもしれない。

そうして
我が輩の辞書から“犠牲”という文字はなくなり
代わりに

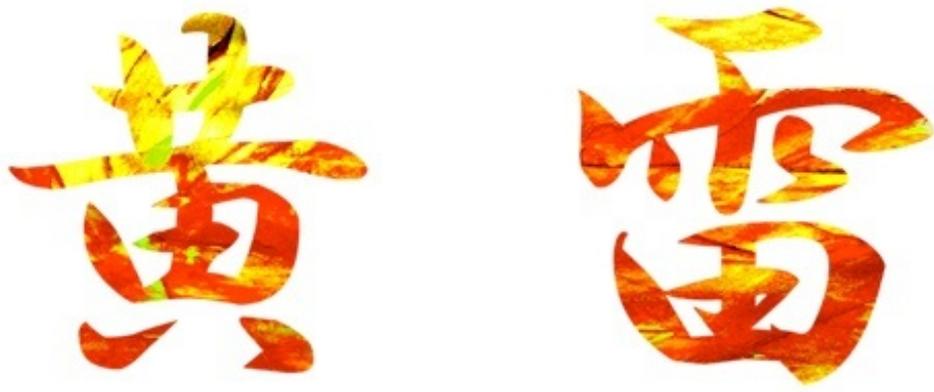
“とびきりの自由”

が太文字掲載されました。
宇宙は自分になんにも望んじやいない。
裏を返せば
自分が望むがままに好き勝手せいとほざいている。

その言葉ありがたく頂戴し

全ては自分が望んだものとして
自分が引き起こしたものとして
この悲しみも
この喜びも
この憎しみも
この愛しさも
ガッツリキャッチ。

望みがないからこそが
最後の希望とは。



ここらでサクッと一発、おきがる雷話をいきたいと思います！

夢分析でおなじみの心理学者カール・グスタフ・ユングは
ジャーナリストに

「Do you believe in GOD?」

「あなたは神を信じますか？」

と聞かれ

しばしの沈黙ののち

こう答えたそうです。

「I know.」

私は神を知っている。

黄雷！

あたいは神を知っている。

どうです？

この不遜。

この生意気さ。

信じる？

それは疑うもののすることだ。

信じるなんてそんな甘っちょろいもんじゃない。

あなたは太陽の存在を信じていないだろう？

私は太陽を目で見て

浴びて

皮膚を焦がして

知っているように

神を知っている。

彼はおそらくそんなことを言いたくて

I know.

とのたまったんじゃないでしょうか。

たまりまへん。

“I know”

たった五つのアルファベットの羅列が

全身に雷駆け巡らす。

しかしね

ユングニ。

それを言うなら

「I feel.」

ではござらんか？

最近、ホントよく思うんです。
際限なく広がる夜空を見上げて
人間以上のなにかを感じないことの方が難しくねえか？
なんて気取ったことを。

“神”という言葉は
人殺しの道具に使われたり
高い壺を売るために使われたりして
あまりにイメージの悪い
怖い怖い言葉になってしまったけど

なにかを要求してくるようなそんなチンケなものじゃなくて
なんかもっとこう
グレートサムシングとか
命の海とか
そんな名前と呼ばれるような
すべてを許して包み込んでしまうような
いやもう
はなから
許さねばならないことなんて
なにひとつありませんけど
ってなぐらいにだだっぴろいなにか。

そういうなにかを
サヨナラホームランに沸き立つ甲子園球場にいる時や
ラブサイケデリコを聞きながら松本大洋の漫画を読んでいる時や
浅田次郎の小説を読んで号泣しすぎた時や
友達とつぼ八でドンチャン騒ぎをしているさなかに
ひと息ついてトイレで無限に飛び出るシヨンベン眺めている時や
SEXした後のポカリが美味すぎた時や
信じられないくらいおっきいうんこが出た時や
この文章をホロ酔い気分で書いてる今や
そういう時には
そういう時なんかじゃ

そういうのでけえなにかを感じずにはいられない。

神という言葉ではどうもしっくりこんので
おそらく同義語だろうと思われる言葉で
表すならば

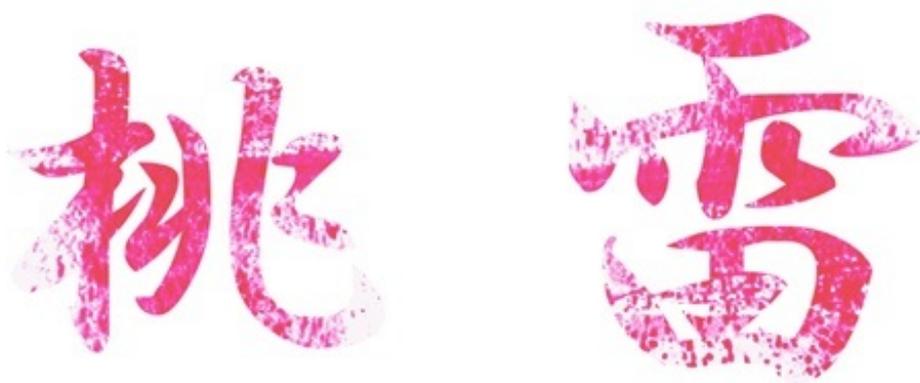
I feel happness

ってやつですか。
神でも幸福でも命の鼓動でも
そんなもんは
理屈をこねくりまわして
語るもんでも
信じるもんでも
知るもんでもなくて

現実の中に転がっている奇跡のような瞬間の中から
じんわり感じとったりするもんじゃなかとでしようか。

幸せなら
ホラ
ここに。

なんてカッコをつけたそばからおもらし寸前
両手放しでベランダから放尿。



最近、海外留学から帰ってきた友達の土産話に雷をくらしまして
この落ちたてホヤホヤの雷はぜひとも入れこみたいと思い
最後に急遽付け足した雷話。
そのくせエロ雷。

オーストラリアから
一年ぶりに帰ってきたマブダチが
友達のK君から聞いたジャパニーズビッチの話。
いや、もはやこれは伝説。
ビッチズレジェンド。

又聞きですが彼の話再現するところです。

K君が友達の家にマイカーに乗って遊びに行くと
そこには見知らぬ日本人の女の子がいたそうです。
その女の子は丁度帰り仕度をしているところで
まだ来たばかりのK君に

「私の家は近所だから家まで送ってくれない？」

とお願いをしてきたらしく

“ずうずうしい女だな”と思いながらも
まあまあかわいいし近所ならいいかと
K君は出会ってすぐのその女の子を
車に乗せて家まで送っていくことにしたそうです。

エンジンオン。

カー発進。

ブロロロロ。

すると女の子、車が走り出した途端
K君に向かって唐突にこう切り出したそうです。

「私、エッチがしたい気分なんだけど」

K君はまったく予想だにできなかったセリフに耳を疑い

「エッ？」

と聞き返すと、ややキレ気味に

「だからあ、私は今エッチがしたい気分なんだって言ってんの！」

と、出会って間もない女はまくしたててきて

「ハ、ハア」

とK君があまりの急展開に飲み込まれ
間の抜けた返事を返すと
すかさず女はたたみかけ

「あんたん家近く？」

もはや、蛇に睨まれた蛙状態の彼は

「ハア」

もはや、蛙を睨んだ蛇状態の彼女はロックオン

「行くよ。今からあんたん家行ってエッチするよ！」

その数分後

K君の家に着いたK君と彼女は

男女合体運動にいそしみふけたそうです。

K君と彼女が出会ってからBODY&BODYに至るまでに要した時間

K君いわく10分以内。

エロ雷！

速です。

神速です。

恋する暇もない。

名刺代わりにまず一発！

氏いわく

「あれは、やったというよりやられた。正直ちょっと悔しかった。」

このド肝を抜くほどエロ正直な女の話聞いた

わたくしめの率直な感想。

ラ、ラオウですか？

なんなんすか

このわびさびのなさ。

欲望剥き出しの生き様。

この女、もしやロックンローラー？

そんな疑念さえも頭をよぎらせるこの女は

いやいやただのアバズレ。

NO SEX NO LIFE.

オーストラリアの暴れ馬なる異名を持つ

ヤンチャなジャパニーズガール。

僕にこの話を教えてくれたマブダチは

「そいつはヤった男のことを喰ったと自慢げに言いふらすわ

誘いを断った男のことは、いくじのないショボチン野郎だと

吹聴してまわるわでやりたい放題やねん。

俺はそんな女とは関わりたくないねん。

そんな女に幕下扱いされるんはイヤねん！」

と、苦い顔をして言っていました。

その気持ち、わかる！！

“SEXはやっぱり心の通った好きな人としなくっちゃ！”

なんて、うら若き乙女のような軟弱な価値観のオレなんて
その子のエロ戦国時代村に閉じ込められてしまえばゴミ中のゴミ。
巨馬に踏み潰されて死ぬ雑兵のわらじの裏のミノ虫です。

想像しただけでも恐ろしい。

と、心の底から震えたその反面。
人間、侮蔑と憧憬はだいたい同時に感じるもので
そのアバズレンジャーのいさぎよさにちと感動。
たまには自分の存在価値をグラグラと
根底から揺るがすものと出会いたいじゃないですか。
異質なるものは
自分のちっぽけさを教えてくれて
なにおう！魂に火をつけてくれるじゃないですか。

だから
異質なるアバズレディに感動をありがとう。
またもや人間新記録大幅更新です。
自分の欲望への忠実さ部門での
ワールドレコードぶっちぎりで更新。

やりたがりすぎっす。

そこまで勇ましい女が
この世に存在するなんて想像さえしてなかった。
世の中には自分の想像を超えていく
色んな生き方があって
みんなおもしろすぎです！
悔しすぎてクヨクヨなんてしてらんない。

桃雷 3

この神速ガールとマサイ族と亀田家とオレ
同じ地球という星に生きているのに
見えている世界は別世界。
もはや別の星の住人と言っても過言ではない。

いや、これはもう人間1人1人が
ひとつの星なんじゃねえかという疑念まで湧いてくる。
死んでしまった人のことを

「あの人は、死んでお星さまになったの」

とかよく言うし
それなら生きてる内からお星さまでもええじゃない。
こりゃあもう

ワールド イズ マイン イッツア オールスター

すね。
そうとなると
これからはアポロ11号気取りで
玄関から街へと発射っすね！
なんだかワクワクすんなあ！

世界はなんにも変わっちゃいないのに
こっちの見方がコロコロ変わる。
その度
世界は新たな姿をこの目にさらし
いちからやり直し。

その器のでかさたるや途方もない。
東京ドーム何個分？

宇宙も地球も人間も
奥が深くて果てがない。

未知なる宇宙

母なる大地

父なる太陽

へべれけ人類

かわいい子猫

ここは尽きせぬ遊び場よ

あなたの宇宙は

どんなだい？

いつか巡り会うこと

あれば

やんごとなき

雷

落としてくれよな